

外部評価結果（総括）

【評価結果】
<p>■問題や不十分な点はない。</p> <p>□一部問題や不十分な点がある。</p> <p>□全体的に不十分であるか、一部に重大な問題がある。</p>
<p>[実施状況に関するコメント]</p> <p>北信がんプロの今年度の目標人数を正規コース、インテンシブコースとも上回って履修生を確保して、事業が順調に遂行されています。E-ラーニングの教材も充実しており、オンコロジーセミナーやIPW 緩和ケア事例検討会などの実践的な学びの場が提供され、教育内容も工夫されています。また、北信がんプロ市民公開講座による市民への発信やホームページを通じた発信にも努めていただきました。全体としてがんプロ事業が順調に進んでいると総括されます。</p>
<p>(優れた点)</p> <ul style="list-style-type: none">・4つの委員会を設置してしっかりした運営体制の元、事業を展開しています。・各大学、正規およびインテンシブの各教育コースについて、目標を上回る履修生を確保しました。・3つのテーマに幅広く多くのE-ラーニング教材を準備しました。・オンコロジーセミナーやIPW 緩和ケア事例検討会など実践的な学習環境の提供に努めました。特にIPW 緩和ケア事例検討会は多職種の参加を得て、意義深い会と評価できます。・セミナー・市民公開講座も活発に開催して、医療者や市民への情報発信に努めました・ホームページを整備して、見やすいものに改変し、情報発信に務めました・今年度、がんプロ履修生の進路調査をされました。全体として60%が北陸地域で就業している結果で、がんプロ修了者の力で北陸のがん医療の改善を期待したいと思います。
<p>(改善を要する点)</p> <ul style="list-style-type: none">・患者会との企画を行い、患者の声を聞いて問題点を見出す機会をさらに作ることが望まれる・セミナー・研修会の参加者のアンケート調査を行うとともに、その教育盛夏や人材育成につ

いての実績を示して頂きたい

- ・ 育成された人材が地域全体に還元していく仕組みを充実して頂きたい
- ・ がんプロ人材育成のための種々の団体との活動や海外施設との連携なども紹介頂きたい。

外部評価結果（委員提出）

氏名（署名）： 松浦成昭

【評価結果】

問題や不十分な点はない。

一部問題や不十分な点がある。

全体的に不十分であるか、一部に重大な問題がある。

[実施状況に関するコメント]

今年度は第4期がんプロの2年目、折り返しにあたる1年でしたが、各大学のすべての正規コース、インテンシブコースで履修者が昨年に引き続いて目標値を達成したことを高く評価します。教育の基礎となるE-ラーニングの教材も各大学が分担して多数のコンテンツをそろえ充実しました。また、オンコロジーセミナー、IPW緩和ケア事例検討会も多くの参加者を得て、活発に実施しました。北信がんプロ全体の市民公開講座も開催し、ホームページその他で、様々な形で、一般市民への発信に努めた点も評価されます。非常に順調に経過していると思いますので、次年度以後の後半も頑張っていたきたいと思います。

(優れた点)

- ・運営体制として次世代北信がんプロ運営協議会が全体を管轄して、その下にある4つの委員会がそれぞれ進捗管理をしている体制で、優れた運営体制と評価します。
- ・がんプロは人材育成事業なので履修生の数が大切ですが、昨年に引き続き今年度も、全大学ですべての正規コース、インテンシブコースで目標を上回る履修生を確保したことは高く評価されます。各大学、各コースの担当者の熱意と努力に敬意を表します。
- ・教育コースの職種も医師・看護師・薬剤師・医学物理士・細胞検査士・認定遺伝カウンセラーとバラエティに富んでおり、特に金沢大は多職種の教育コースをそろえて頂きました。
- ・外部からの意見を取り入れてテーマ1の腫瘍循環器コースを富山大学に設置したことは、外部の意見も傾聴しながら事業を進めている証です。
- ・各大学が分担協力して、多数のE-ラーニングの教材を作成し、大変充実していることは教育のリソースの提供という意味で高く評価されます。
- ・多職種連携演習であるオンコロジーセミナーを6回、IPW緩和ケア事例検討会を6回、計画

通りに実施しており、ともに多数の多職種の参加者を確保していることも評価されます。

・大学院生交流セミナーは大学間の交流の意味で素晴らしい取組みと思います。がんプロ経験者にも参加をしてもらうことは大きな意義があると思います。今年は学部生の参加もあり、しかも優秀発表賞にも選ばれたとのことで学部教育にもよい影響を及ぼしています。

・オンコロジーセミナー、IPW 緩和ケア事例検討会以外にも各大学が独自にたくさんのセミナーを実施しました。特に長野県立看護大学の「がん看護アドバンス研修」「長野がん看護/家族看護研究会は素晴らしい取組みです。福井大学の「がん医療スキルアップセミナー」も優れた取組みです。金沢大学・富山大学・金沢医科大学の共催の形でセミナーを開催したことは評価したいと思います。

・市民向けの発信として、北信がんプロ合同市民公開講座も良い内容で素晴らしいイベントです。各大学が独自に市民向けの講演会を実施。

・北信がんプロホームページは整備いただき大変見やすく内容もよくなったと思います。

・今年度、がんプロ履修生の進路調査をされたことは高く評価したいと思います。全体として60%が北率地域で就業しているとのことで、がんプロ修了者の力で北陸のがん医療の改善を期待したいと思います。

(改善を要する点)

・第4期がんプロは順調に経過しており全体として改善を要する点はありません。次年度以後も履修生を確保して、教育の質を保ち人材育成に励んで頂くことを期待します。

・あえて不足していた点を申し上げるなら、患者会と連携したイベント（あるいは患者にも参加してもらってのディスカッション）があればさらによいと思います。

(お願いしたい点)

・ホームページは改善されましたが、今後、がんプロの成果（履修生の人数だけでなく）を発信できればさらに良いと思います。「活動報告」の欄で、オンコロジーセミナーやIPW 検討会等のセミナー実績一覧はポスターだけになっているので、参加者など簡単な報告をして頂ければと思います。

・各大学のセミナー・市民向け講演会などのイベントはできるだけアンケートを取って、人数・職種・大学や満足度などを調べて頂ければと思います。オンコロジーセミナー・IPW 事例検討会は北信がんプロ全体にとって大切なので、人数だけでなく、職種・大学・評価を調べて下さ

い。

・今回の評価委員会でプレゼンされた資料はできるだけホームページなどで発信頂きたいと思
います。特に、履修生の進路調査結果はがんプロが地域医療に貢献していることを示していま
すので、アピールできると思います。また、論文・学会発表等の業績リストはがんプロ大学院
生の activity の参考になりますので、これらも提示して頂ければと思います。共著者でもよい
と思います。

外部評価結果（委員提出用）

氏名（署名）：馬場英司

【評価結果】

問題や不十分な点はない。

一部問題や不十分な点がある。

全体的に不十分であるか、一部に重大な問題がある。

〔実施状況に関するコメント〕

今年度の正規課程の受け入れ履修者数は目標 32 名に対して 50 名と増加しており、同じくインテンシブコースも目標人数を超えた履修者を確保しています。いずれの大学も目標を達成し、増員していることから、拠点全体として活発に活動が行われていることがうかがえます。

拠点全体として複数回のオンコロジーセミナーを開催して、多彩ながん医療の分野を網羅しており、毎回多くの参加者がいることで教育効果が高いと思われます。大学院生交流セミナーでは、レベルの高い研究活動報告と大学間の交流が推進されており、拠点内大学を繋ぐ合同事業として意義深いと感じました。同じく拠点全体として実施した第 3 回北信がんプロ合同市民講座のプログラムは内容が魅力的で、市民への情報提供の効果が高かったと思われ、運営協議会で市民参画を進めた効果と思われます。E-ラーニングの教材提供は、3 分野にわたってバランス良く行われすでにアップロードを終えたことから、全国のがんプロ参加校にも貢献できると思われます。本年度の活動報告を伺い、拠点全体で実施したいいくつかの事業が順調に進んでいることが理解でき、運営協議会下の委員会の活動が結実したものと考えています。

（優れた点）

・金沢大学の実施した進路調査の結果は貴重であり、北陸 3 県の就業者数や勤務地の動向などは様々な因子が関わると思われますが、今後のがんプロ事業推進のための指針になると思われます。

・信州大学では博士課程に、創薬など新たながん治療開発に繋がる人材育成としてバイオベンチャー企業の講師、履修生を加えるなど、人材育成の効果が期待されます。

・金沢医科大学では北信がんデータベース事業としてがんプロ履修生の論文発表を行っており、取組の成果が見られます。

・長野県看護大学ではインテンシブコースの IPW 包括的緩和ケアコースの事例検討研修の実

施が充実しており、毎回多職種の参加を実現していることは意義深いと思います。

(改善を要する点)

学際領域の人材育成の具体的な実績をより明確にお示しいただければと思います。

本年度は日本癌学会との合同事業もありましたが、このようながんプロ人材の育成のための拠点外施設・団体（他拠点を含む）との活動、あるいは海外施設との連携などがありましたらより具体的にご紹介頂けるとよいと思います。

外部評価結果（委員提出用）

氏名（署名）：河原昌美

【評価結果】

■問題や不十分な点はない。

□一部問題や不十分な点がある。

□全体的に不十分であるか、一部に重大な問題がある。

[実施状況に関するコメント]

大学院正規課程およびインテンシブコースへの入学者数が3年間の活動を通して充足したことが最も大きな成果と考えます。ホームページも見やすくなり、e-learningの教材も充実しました。さらに、市民への発信が活発に行われていくことを期待します。

地域がんデータベース調査事業の成果として、がん治療開始までの時間に関する結果が論文として公表されたことは、大きな成果と考えます。また、次世代北信がんプロ大学院生の交流セミナーは、研究の活性化と相互交流に大きな成果をもたらしていると考えられ、さらなる発展と継続を期待します。

がんプロ履修生の進路調査結果が明らかになり、多くの医師が地域に貢献していることが評価されます。がんプロを修了した他の職種に関しても、地域への貢献状況が公表されることも望まれます。3年間を通して、それぞれの大学が独自の視点から熱心に取り組んだ成果が形になってきていることが伺えました。今後は横のつながりを意識し、他大学のプログラムへの参加など、次世代北信がんプロ全体の発展につながる交流や取り組みを期待したいと思います。

シームレスに医療を提供できる多施設・多職種連携医療人材育成を進めることのゴールは「全てのがん患者と家族が安心してがんに関する全医療を居住地で速やかに受けること」であり、そのための人材をどれだけ育成、輩出することができたかを明確に示していく事が北信がんプロの価値につながっていくと期待します。

（優れた点）

金沢大学：大学院正規課程の受け入れ人数充足率が高く多岐にわたる教育成果が期待される。多くの資格取得者が地域で活躍しており、がんプロが果たした役割と存在価値が大きい。

富山大学：診療支援部門で多彩なチーム医療が展開され、チーム医療に関するがんプロ受講生の充足率が高い。ゲノム医療に熱心に取り組み、毎月開催されるエキスパートパネルに、大学院生も演習として参加可能である。

福井大学：県内の医療機関との連携や、教育学部と連携したがん教育に取り組んでいる点は特筆に値する。がん医療スキルアップセミナーや看護セミナーの動画を公開し、活用の幅を広げている。

金沢医科大学：データベースを適切に収集、活用、発信している点が大きく評価される。シームレスながん医療を意識したアドバンスケアプランニングは必要とされており継続が期待される。III期までに作成したe-learningの教材のアップデートを実施している点も評価される。

信州大学：遺伝カウンセラーはゲノム創薬の時代に重要な役割を果たす職種で、ニーズも高く有用な取り組みと考えられる。新たな治療法の開発にも熱心に取り組んでいる。

長野県看護大学：IPW緩和ケアコースで実施している多職種協働事例検討研修会を継続開催し、多くの参加者が多方面の事例について意見交換している。職種に関わらず高い理解と満足を得ていることが明らかとなった点も評価される。

(改善を要する点)

金沢大学：医師以外のがんプロ履修生の進路および資格取得状況についても人材育成の成果の公表が望まれる。

富山大学：大学院生のエキスパートパネルへの参加が少なく、年に1回以上の参加を促すなどの取り組みが望まれる。がんプロ履修生の先端がん教育向上の講演や医療従事者向け研修の参加状況などの結果が見えるとよい。

福井大学：シームレス型栄養管理コースの活動内容が見えにくい。がんプロ履修生や修了生の医療現場での活動が広報されることが望まれる。

金沢医科大学：がんプロ受講生の継続的な獲得のために、地域への広報を通じた啓発活動への取り組みを期待したい。

信州大学：遺伝カウンセラー養成という独自の取り組みに対し、さらに発信力を高め、広く受講生を集めて育成していくことが望まれる。

長野県看護大学：多職種協働事例検討研修会を北信がんプロ全体からの参加も視野に入れた広域の取り組みにしていくことを期待したい。(オンラインでブレイクアウトルームを活用したSGDを行うなどの工夫を視野に)

外部評価結果（委員提出用）

氏名（署名）： 牧野 智恵

【評価結果】

問題や不十分な点はない。

一部問題や不十分な点がある。

全体的に不十分であるか、一部に重大な問題がある。

[実施状況に関するコメント]

- 1、「次世代北信がんプロの活動」の<養成する人材像>のゴール、達成目標数に向けて、着実に人材育成が進んでおり、評価できると思います。
2. 各大学のそれぞれの強みを生かしたチームワークが取れた人材養成の内容となっており、評価できると思います。

(改善を要する点)

- 1, 長野県立看護大学で実施している、IPW 緩和ケアコースで、さらに参加者を増やす工夫として、平日の開催を試みてはどうかと思います（次年度は検討していると言っていたようですが、ぜひ実践してほしいと思います）。
- 2, がん看護専門看護師の育成者数（2024年以降の入学者数が評価されると思われます）が伸び悩んでいるように見受けられます。富山大学や福井大学の専門看護師育成コースとも協働し、年間2名以上を育成できるよう工夫されてはどうでしょうか。
- 3, がん看護 CNS 養成科目で北陸4県以外の大学との共同運用を目玉にされてるようですが、その利点は何でしょうか？記載されるといいと思います。
- 4, 各地域にある患者会や、がんサロンなどと協働した市民公開講座を開催し、外来通院など、地域・在宅にでがん治療・療養を続けているがん患者さんの、生の声を聴き、今後のがん医療人の養成に生かすことも重要と思われます。その実施によって、本事業のゴールである「全てのがん患者と家族が安心して全医療を居住地で速やかに受けることができる医療を担う人材育成モデル」ができるのではないかと思います。

外部評価結果（委員提出用）

氏名（署名）：**真島喜幸**

【評価結果】

- 問題や不十分な点はない。
- 一部問題や不十分な点がある。
- 全体的に不十分であるか、一部に重大な問題がある。

〔実施状況に関するコメント〕

北信がんプロフェッショナル養成プランの取り組みにより、がんゲノム医療、個別化医療、緩和ケア、遺伝カウンセリングなど、近年急速に高度化しているがん医療を担う専門人材の育成が着実に進められている点を高く評価します。金沢大学を中心として、信州大学、富山大学、福井大学、金沢医科大学、長野県看護大学の6大学が連携し、医師のみならず看護師・薬剤師・遺伝カウンセラー・医学物理士など多様な専門職を対象とした体系的教育プログラムを構築し、地域全体のがん医療の質の向上に寄与していることは、本事業の大きな成果であると考えます。

特に、専門医のみならず看護師・薬剤師等を含めた多職種の高高度専門人材を育成している点は、チーム医療が不可欠ながん診療において重要な意義を持つ取り組みであり、北信地域のがん医療体制の基盤強化に大きく貢献しているものと評価いたします。

また、市民公開講座や地域医療機関との連携、医療者向け研修会などを通じて、教育成果を地域社会へ還元する取り組みも各大学で積極的に行われており、地域全体のがん医療の理解促進や人材育成に寄与している点も評価に値します。

一方で、患者の視点から見ると、高度医療機関を中心とした「点」の医療体制は着実に整備されつつあるものの、それらの成果を地域社会という「面」へ展開し、すべての患者が地域において必要な医療へ円滑にアクセスできる体制の構築については、今後さらに発展の余地があると感じられます。育成された専門人材が地域医療機関や患者団体と連携しながら、その知識と経験を地域全体へ還元していく仕組みが今後さらに充実することを期待します。

また、優れた専門人材を育成する「入口」の教育は充実している一方で、その成果を地域住民や患者に広く伝え活用してもらうための「出口」、すなわち広報・情報発信の戦略については、さらなる工夫の余地があると考えます。大学のウェブサイトやSNS等を活用し、専門的ながん医療の情報を患者・市民にも理解しやすい形で発信することで、本事業の社会的価値がより広

く共有されることを期待します。

具体的には、現在の「次世代北信がんプロ」ホームページのメニュー構成では、市民や一般の方がアクセスすべき情報が必ずしも明確に整理されているとは言い難い状況が見受けられます。例えば、他地域のがんプロ養成プランのウェブサイトで採用されているように、「イベント」等のメニューを新たに設け、市民公開講座や市民向けセミナーの情報を体系的に整理して掲載することにより、市民公開講座へ容易にアクセスできるよう改善することが望まれます。これらは地域住民にとって貴重ながん教育の資源となることから、過去の市民公開講座の動画や資料を整理した専用ページを設けるなど、患者・市民が継続的に学ぶことができる情報基盤として活用されることが期待されます。

このような患者・市民に向けた情報発信の強化は、本事業の教育成果を地域社会へ還元するうえで重要であるとともに、患者市民参画（PPI）を推進する基盤としても重要な役割を果たすものと考えられます。今後、教育・研究の成果を医療者だけでなく地域社会全体と共有する取り組みがさらに発展し、地域におけるがん医療の理解促進と患者支援の充実につながることを期待します。

また、近年は生成 AI をはじめとするデジタル技術の活用が教育・研究分野でも進んでいます。医師の働き方改革が進む中、本事業に関わる教員や受講生の負担を軽減しつつ教育の質を維持・向上させるためにも、e-learning 教材の作成、多職種カンファレンスの要約、教育資料の作成などにおいてデジタル技術（DX）を戦略的に活用することは、今後の発展の方向性として検討されることが望まれます。

今後は、育成された専門職が高度医療機関の枠を超え、患者・市民参画（PPI）を積極的に取り入れながら地域医療機関や患者団体と協働し、「誰ひとり取り残さないがん医療」を地域社会で実現するリーダーとして活躍していくことを強く期待します。本プログラムは、専門人材育成を通じて地域医療の質を高める先進的なモデルとして、今後全国的にも参考となる取り組みであると考えます。

（優れた点）

■ 金沢大学

事業の代表校として、がんゲノム医療や個別化医療など最先端のがん医療を担う高度専門人材の育成を体系的に推進している点を高く評価します。北信地域の大学・医療機関を結びつけるハブとして、リーダーシップを発揮し、教育・研究・臨床の連携を牽引し、地域全体のがん

医療水準の向上に大きく貢献しています。特に、多職種教育を通じて医師のみならず看護師・薬剤師・医学物理士・遺伝カウンセラーなどが協働する次世代型チーム医療人材を育成している点は、本事業の中核的成果として評価できます。

■ 富山大学

地域医療の均てん化を見据え、腫瘍循環器学やチーム医療の実践に特化した人材育成に注力している点が優れています。地域連携の要となる専門職を育て、患者を孤立させないシームレスな支援体制の構築に貢献しています。

独自の強みを生かした多彩なコース設定と実践的な教育体制が優れています。本科生・インテンシブコースともに定員を満たし、順調な受け入れを実現しています。特に、腫瘍循環器学や高度な薬剤師・創薬研究者の養成といった特色あるプログラムが魅力です。また、大学院生ががんゲノム医療のエキスパートパネルにOJTとして参加できる実践的な環境や、総合がんセンターにおける多職種チーム医療の実践体制が整っています。さらに、大学院生交流セミナーで2名が受賞するなど、学生のモチベーションと研究レベルの高さも特筆すべき点です。

■ 福井大学

多職種連携の推進と、地域社会への幅広い還元が非常に優れています。第一に、多職種を対象とした「シームレス型」の緩和医療コースや栄養管理コースにおいて、目標を上回る受講者を確保し着実な成果を上げています。第二に、県民公開講座の開催や地元紙での広報、医療機関への無料冊子配布、専門医検索マップの提供など、県民や地域医療機関への情報提供が手厚いです。さらに、教員向け研修や福井大学教育学部での講義、作成した授業スライドの県HPへの公開など、がん教育の普及にも積極的であり、医療人だけでなく地域全体のレベルアップを図る姿勢が高く評価できます。

■ 金沢医科大学

先進的ながん治療を支える臨床腫瘍医や、多職種専門人材（薬剤師・看護師等）の育成に注力し、地域の医療ニーズに応え、高度なチーム医療を実践できる人材を輩出しています。

がんゲノム医療や分子病理学といった、高度で専門性の高い分野に特化した教育コースを提

供している点は優れています。「次世代北信がんデータベース事業」を牽引しており、北信地域の医療機関（最大 40 施設程度への拡大を予定）から院内がん登録と DPC データを収集・統合する取り組みは、地域全体の医療の質向上に大きく貢献する基盤となっている点は高く評価できます。単一細胞解析や再生医療などの最先端の研究テーマを扱う FD 講演会を開催する一方で、100 名以上が参加する合同市民公開講座や本格的な ACP（アドバンス・ケア・プランニング）の研修会も実施しており、専門家から一般市民まで幅広い層への情報発信と啓発が充実している点は高く評価できます。

■ 信州大学

広大な長野県において、がんゲノム医療や小児・AYA 世代支援など高度ながん医療を担う専門医療人材の育成に取り組み、地域医療圏を越えた医療の均てん化と拠点病院機能の強化に大きく貢献している点が優れています。

信州大学の活動において、本邦初となる遺伝カウンセリングコースの実績を基盤に、「シームレス型がん予防推進認定遺伝カウンセラー養成コース」を設定し、がんゲノム外来やエキスパートパネルへの参加を通じて実践的な医療人を育成している点は高く評価できます。また、「遺伝子・細胞治療研究者養成コース」において、日本の大学院では希少な、基礎研究から創薬、知財、治験、社会実装までをシームレスに修得できる教育カリキュラムを構築している点も非常に優れています。さらに、これらの特色あるコースにおいて、当初の目標を上回る受入実績（令和 7 年度博士課程 4 名など）を着実にあげており、多様な専門家による多角的な指導体制が機能している点も大きな強みと言えます。

■ 長野県看護大学

地域医療や在宅療養を支える、高度な実践能力を持つがん看護専門看護師の育成に尽力し、患者や家族の QOL 向上と、地域に根ざした切れ目のないケアシステムの構築に大きく貢献している点が優れています。

長野県看護大学の活動において、看護分野の専門性を生かし、多職種を対象とした「IPW 包括的緩和ケアコース（インテンシブコース）」を設置し、毎年 20 名という大規模な受け入れを実践している点は高く評価できます。また、正規課程において「ライフステージと共生の包括ケアコース」を設け、小児・AYA 世代から高齢者まで幅広い世代に応じた療養環境への支

援や、地域共生社会の実現に向けた教育を展開している点も非常に優れています。多職種連携（IPW）を基盤とした緩和ケア教育を通じて、地域のがん医療を支える医療スタッフの裾野を大きく広げている点は大きな強みと言えます。

（改善を要する点）

■ 金沢大学

高度専門人材の育成という強みをさらに発展させる観点から、教育プログラムの設計や評価の段階に患者・市民参画（PPI）を取り入れる仕組みを整備し、患者の経験やニーズを教育内容へ反映させる取り組みの強化が期待されます。また、地域のかかりつけ医や医療機関と連携し、膵臓がんのような難治がんの早期発見や適切な専門医療への紹介体制を牽引できる実践的リーダーの育成が今後さらに進むことを期待します。

■ 富山大学

育成された専門人材が地域医療の現場でさらに活躍できるよう、訪問看護や地域薬局など地域医療との連携を取り入れた教育の充実を図ることで、地域医療全体を支える多職種連携体制のさらなる発展が期待されます。

育成された専門人材が中核病院のみならず地域医療の現場でも活躍できるよう、訪問看護や地域薬局、患者会など、地域の多様な主体との連携を取り入れた教育の充実を図ることで、医療アクセスの課題を抱える患者を取り残さない地域密着型の医療体制の発展が期待されます。

目標である「シームレスながん医療」を実現するためには、大学病院内でのチーム医療にとどまらず、地域施設との連携を見据えた実践的な演習をさらに充実させる必要があると報告書内でも触れられています。今後は、ゲノム医療や新規創薬などの高度な専門知識を持つ人材が、実際の地域医療の現場でどのように多職種と協働できるかを体感できる実地プログラムの拡充が期待されます。

■ 福井大学

がんプロ活動の「質的なアウトカム評価」と「医師のさらなる参加促進」が挙げられます。資料では、セミナー参加人数やコース実績などの定量的な成果は明確に示されていますが、育成した人材が現場でどのようにシームレスな連携を実践し、患者のケア向上にどう結びついた

かという質的な評価の記載が不足しています。今後は追跡調査や好事例の共有が望まれます。また、統合型がん医療専門医コース（医師対象）の実績は目標を達成しているものの（令和7年度で4名）、多職種コース（同17名、14名）と比較すると絶対数が少ない印象を受けます。多忙な医師をさらに巻き込むための工夫や、受入を開始したばかりの新規コースの成果を今後どう可視化していくかが課題と言えます。

■ 金沢医科大学

高度な治療知識の習得にとどまらず、ドラッグ・ラグやゲノム医療に届かない等に悩む患者の不安に寄り添う対話力の育成や、地域のプライマリ・ケアと連携して膵臓がん等の早期発見を推進する実践的な地域連携教育の強化が求められます。

設置している「がん専門医療人養成コース（正規・インテンシブ）」の対象が医師のみに限定されており、各コースの受入予定人数も毎年1名と小規模にとどまっている点は改善が求められます。今後は、多職種を対象としたプログラムの展開や受入枠の拡大を図ることで、より広範なチーム医療人材の育成に寄与していくことが期待されます。また、「次世代北信がんデータベース事業」においてデータの収集体制は順調に拡大していますが、蓄積したデータを活用して具体的にどのような臨床的課題を解決したかといった「データ活用による実績（アウトカム）」の提示が不足しているため、地域医療への還元プロセスを今後の報告で可視化していくことが重要な課題と言えます。

■ 信州大学

高度医療の提供にとどまらず、患者会と連携したPPI（患者・市民参画）の推進や、広大な地域のどこからでも最新治療や治験情報にアクセスできるような、ICTを活用した患者支援体制の強化が期待されます。

e-learning教材の作成や大学院生交流セミナーでの発表、市民公開講座への参加など、活発な取り組みが報告されていますが、それらの学びを得た人材が実際の現場でどのように患者ケアの向上に結びついているかという質的なアウトカム評価の提示が不足しています。今後は、教育の成果を具体的な事例として示すことが期待されます。また、育成した認定遺伝カウンセラーや臨床研究医などの専門人材が、資格取得後に北信地域の医療機関でどのように活躍し定着しているかといった、長期的なキャリア支援と地域還元へのプロセスをより具体的に

示していくことも今後の重要な課題と言えます。

■ 長野県看護大学

育成された専門看護師が病院内にとどまらず、地域の訪問看護や患者会とより密接に連携し、在宅の難治性がん患者が抱える時間毒性（Time Toxicity）等の不安にも寄り添う面的な支援ネットワークの牽引が求められます。

インテンシブコースにおいて年間 20 名規模の大幅な受け入れを行っている一方で、受講者の具体的な職種内訳や、修了後の活動状況に関する「質的なアウトカム」の提示が不足している点は改善が求められます。今後は、看護職以外の参加状況を可視化し、真の多職種連携（IPW）が実際の地域医療でどのように実践・機能しているかを追跡し評価していくことが期待されます。また、正規課程の修了生が地域の基幹病院や在宅ケアの現場でどのようにリーダーシップを発揮し、シームレスながん医療体制の構築に貢献しているかという具体的な成果を、今後の報告で明確にしていくことが重要な課題と言えます。